

イヴニングサロン

夕暮れのひとときを愉しむ、博物館展示室でのミニコンサート。
 素敵な楽器と音楽につつまれてみませんか。

会場/楽器博物館展示室天空ホール
 定員/100名
 主催/浜松市楽器博物館
 (財)浜松市文化振興財団

チケット **1000円**

楽器博物館、アクトシティチケットセンター、
 ヤマハミュージック東海浜松店にて
 公演2カ月前より発売。
 電話予約は楽器博物館へ。



8/7(土) ~自然のささやき~ チターに魅せられて...

【チケット発売 6/7】

ドイツ南部やオーストリア、スイスに伝わる民俗楽器チター。家庭や酒場で愉しまれていたが、映画「第三の男」で、アントン・カラスの演奏により全編にわたってバックに流れていた音楽で、一躍世界中に知れ渡り有名になった楽器である。ワルツ「ウィーン森の物語」の序奏にも使われている。えもいわれぬ甘く透明な音色は、やさしく美しい自然のささやきそのもの。



演奏 **内藤敏子**

- プログラム
- トラウン湖の夕暮れ / H.フランク
 - 幻想曲 / A.スメターク
 - ハリリー・ライムのテーマ / A.カラス (映画「第三の男」より)
 - カフェ・モーツァルト・ワルツ / A.カラス (映画「第三の男」より) ほか

内藤敏子/17歳の時に来日中のソ連のヴァイオリニストE.ペスロードニー氏に認められモスクワへの留学を勧められる。その後スイスにてチターとヴァイオリンの協演がきっかけとなりチターの魅力にひきこまれる。スイス・チューリッヒ市在住十数年間にヴァイオリンの演奏活動とともに世界的なチター界の実力者J.コザ女史のもとでチターを習得。映画「第三の男」で有名なチター奏者アントン・カラス、さらに20世紀を代表するチター界の巨匠ルーディ・クナーブル氏からもレッスンを受ける。スイスにてチター演奏家ディプロム及びチター教育者ディプロムを取得して帰国。国際チターセミナーや学会等での演奏と講演、オーケストラとの協演、チター演奏家の育成など国内外で幅広い活動を行っている。現在日本チター協会会長。秋篠宮妃紀子殿下のチターの先生としても知られている。

8/22(日) ~旧き良き時代のアメリカ音楽シーン~ オールドタイム・バンジョー・ナイト

【チケット発売 6/22】

演奏 Jeffrey Yamada (バンジョー・2007年横浜バンジョー祭り第1回バンジョープレイヤーコンテスト優勝)
 福田淳一郎 (バンジョー・2010年横浜バンジョー祭り第4回バンジョープレイヤーコンテスト優勝)
 Mike Saito (フィドル) 高木 Bosco 光介 (フィドル) 坂野 Heja 恵子 (ダンス)

プログラム

- Old Joe Clark
- John Henry ほか

オールドタイム・ミュージックとはアメリカン・フォークロア (伝承) 音楽をさし、一部ではアパラチア山脈近郊のスコットランド・アイリッシュ系移民が伝承したフィドル (バイオリン) 中心のダンス音楽をさす。近年はフォークやカントリー音楽のルーツとして改めて注目されている。フィドルと並んで欠かせないのがクローハンマーと呼ぶ独特の奏法で演奏するバンジョー。日本でも数少ない本場仕込みのバンジョー奏者とフィドルやダンス、歌を交えての素朴で楽しい、そしてどこか哀愁を感じさせる、本格的なオールドタイム・ミュージックの世界を楽しんでいただく。



9/17(金) ~ブランシェ・チェンバロで聴くバッハ、ウィーン、パリ~ フレンチ・クラヴサンの美

【チケット発売 7/17】

楽器博物館所蔵の世界的名器ブランシェ・チェンバロ。1765年パリ王室御用達の名工フランソワ・エティエンヌ・ブランシェ2世によって作られたこの楽器の音色は、この上なく甘美で優雅。18世紀のフランス、ヴェルサイユ宮殿の作曲家を中心とした作品は言うに及ばず、音楽的にはフランスと対比するドイツ、バッハの作品や19世紀ウィーンのアレクサンダー・グレンツの演奏においても、その甘美な音色の輝きと作品への相性は秀逸。世界的名手中野振一郎さんの演奏で聴き慣れた名曲の数々を楽しんでいただく。

演奏 **中野振一郎**

- プログラム
- メリー・ワイドウのワルツ / F.レハール
 - ウィーン、わが夢の街 / R.シーチンスキー
 - イタリア協奏曲へ長調より / J.S. バッハ
 - 三美神 / J.デュフリ ほか

中野振一郎/京生まれ。1986年桐朋学園大学卒業。90年に大阪で開催した4夜連続の演奏会「ヨーロッパ・チェンバロ音楽の旅」により大阪文化祭金賞等を受賞。その後松賞、文化庁芸術祭新人賞、文化庁芸術祭大賞等数々の賞を受賞。91年フランスのヴェルサイユ古楽フェスティバルに日本代表として参加し、ケネス・ギルバートらとともに世界の9人のチェンバロ奏者の1人に選ばれる。92年米国パークレー古楽フェスティバルに最年少の独奏者として招かれる。93年ロンドン・ウイグモアホールでデビュー・リサイタル。99年コレギウム・ムジクム・テレマンを率いてドイツ招聘演奏で高い評価を得る。03年より東京国立博物館の室内楽コンサートに出演。同年ライブビデオの「バッハ・フェスティバル」に招聘される。今までに多くのCDをリリースし多くが音楽誌特選盤となる。2009年レコード・アカデミー賞受賞。浜松市楽器博物館コレクションシリーズCDも多数演奏。



9/25(土) ~北欧のきらめき~ フィンランドのカンテレ

18:30

【チケット発売 7/17】



森と湖の国フィンランドに国民楽器として古くから伝わるカンテレ。その音は透明で、琴のようなハープのようなこの上なく美しい響き。世界3大叙事詩のひとつフィンランドの「カレワラ」は、カンテレの起りをこぎ語る。「英雄ワイナモイネンが魚のカマスのあごの骨と馬の尻尾の毛で最初のカンテレを作ったが、戦いで海に没してしまふ。彼は再びカンテレを作る。白樺の木を胴に、乙女の髪を弦にして。カンテレを奏すと、山や岩が鳴り、男は帽子を手に取り老婆らは頬に手をあて、少年は膝まづき少女は涙して、その調べに聴き入った。」

あらひろこ

フィンランドの伝統楽器カンテレの奏者、コンポーザー。1990年以降小型カンテレを弾き始め94年にフィンランドのカウステイネン民族音楽研究所及びシベリウス音楽院にてカンテレとフィンランド伝統音楽を学ぶ。以降北海道を拠点に各地で演奏活動を展開。大型のコンサートカンテレをメインに、5弦、10弦、15弦など大小それぞれのカンテレを演奏する。フィンランドや北欧の美しい伝承曲のほか、ケルトやイングランドなどの伝承曲、日本の歌やポップス、オリジナル曲などを演奏。特にカンテレの音色を生かした即興的な作風のオリジナル曲は海外のミュージシャンたちからも高い評価をうけている。ソロ演奏のほかにも、モンゴルの楽器馬頭琴・喉歌で縦横無尽な活動を展開する越後治彦とのユニット「RAUMA(ラウマ)」で活動するほか、さまざまなジャンルのミュージシャン、朗読や美術などのコラボレーション多数。



演奏 あらひろこ

プログラム

- 村は新月を待ち / フィンランド民謡
- トナカイの子守唄 / マルティ・ポケラ
- 遠い旅の記憶 / あらひろこ ほか



磯絵里子 水永牧子 水谷川優子
共催：(財) ローランド芸術文化振興財団

10/3(日) ~電子チェンバロ、ヴァイオリン、チェロによる華麗なるトリオ~ チェンバロ三重奏による クリスタル・サウンド

18:30

【チケット発売 8/3】

演奏 アクア・トリニティ

水永牧子(電子チェンバロ)
磯絵里子(ヴァイオリン)
水谷川優子(チェロ)

プログラム

- オリエンタル / キュイ
- リベルタンゴ / ピアソラ
- ラフォリア / コレリイ 西澤健一
- クラヴサン・コンセル 第5番 / ラモー ほか

アクア・トリニティ

Aqua=水、Trinity=三位一体。若手実力派奏者として活躍中の磯絵里子(ヴァイオリン)、水谷川優子(チェロ)、水永牧子(チェンバロ)によって07年に結成され、各地で公演活動を重ねている。メンバー全員が「水」に関する名前であることから、このグループ名が命名された。美しく華麗なバロックの名曲から、映画音楽やピアノ作品まで演奏。このトリオならではの味わい深くセンス溢れるプログラミングと、ありそうでないチェンバロ三重奏の繊細で美しいアンサンブルが大好評を得ている。

水永牧子

桐朋学園大学古楽器科を卒業。フライブルク音楽大学大学院を修了し、同大学で初めてドイツ国家チェンバロ・ソリストディプロマを取得。99年最優秀賞受賞。01年東京にてソロリサイタルデビュー。最新CDは06年発売の「イングリッシュ・ガーデン」(ピクチャー)。ソロ以外でも古楽アンサンブル「ラ・フォナーヌ」のメンバーとしても活動中。チェンバロを故郷島元子、R.ヒル、M.ペーリガーに師事。

水谷川優子

祖父・近衛秀麿の遺志によりチェロを始める。桐朋学園大学ディプロマコース、モーツァルト音楽祭、サンタ・チェチリア国立アカデミー等で研鑽を積み、ヨーロッパで日本での活動を展開。東京国際室内楽コンクール優勝、カラブリア芸術祭コンクール1位、ピネロ・00国際室内楽コンクール2位等の受賞歴を持つ。また少年院や福祉施設等におけるボランティア公演も積極的に行っている。最新CDは「シルヴェイグの祈り」(ピクチャー)【CD芸術】準特選盤。

磯絵里子

桐朋学園大学卒業後、I.オストラフに招かれリュッセル王立音楽院に留学。修士課程大賞を受賞して首席修了。マリア・カカス国際コンクール第3位他、国内外の数々のコンクールで入賞多数。ソロリサイタル、室内楽、オーケストラとの共演、音楽祭への参加など、幅広い活動を展開。TV・ラジオ出演も多い。小中学校を中心としたアウトリーチ活動、マングローブ植林活動等も展開。最新CDは「フランク&ルーク・ヴァイオリン・ソナタ集」(オクヴァレレコード)。洗足学園大学講師。

10/16(土) ~バロックからジャズまで~ リコーダー・カルテット

18:30

【チケット発売 8/16】

演奏 スーパーリコーダーカルテット

藤田隆 北村正彦
秋山滋 松浦孝成

プログラム

- 大きな古時計 / H.C.ワーク
- ハヴァ・ナギラ / イスラエル民謡
- 協奏曲 ハ長調 / A.ヴィヴァルディ
- バラの香り / テシュナー
- JAZZ TRIPTYCH (ジャズ三景) / G.マッカーノン ほか



藤田隆 北村正彦 秋山滋 松浦孝成

スーパーリコーダーカルテット

2004年東西で活躍するリコーダー奏者4名により結成。05年3月兵庫県西宮市甲子園ホールにて(藤田隆リサイタルX2)で初コンサート。メンバーの個性を生かした絶妙のアンサンブルと絶賛される。本来はこの場限りの結成であるはずがあまりの反響に8月東京(仁キリスト教会)でコンサート。「仁キリスト教会」が聴きたかった」の声が多数寄せられた。以降ザ・フェニックスホール、東京文化会館などを大阪、兵庫、三重、東京、北海道ほかコンサートを多数開催。これまでにCD2枚をリリース。

藤田隆

関西で15年リコーダー演奏を手がけ、大阪音楽大学卒業生としての演奏家としてリコーダリサイタルを行い大観文化賞、音楽プロフェッショナル賞を受賞するなど分野を確立した。1974年大阪国際フェスティバル協会の海外派遣文化交流員として渡欧。テレマシ室内管弦楽団ドイツ招聘演奏旅行に4回ソリストとして参加。リコーダーの演奏に対して絶大な評価を得る。学校教育音楽の分野でも全国的に活動し、上方風ユークの指導も定評がある。大阪音楽大学音楽博物館長、同付属図書館館長を歴任。大阪音楽大学教授、相愛大学音楽学部非常勤講師。

秋山滋

相愛大学音楽学部器楽科古楽器専攻卒業。英国ロンドンギルドホール音楽院大学院古楽器専攻課程終了。リコーダーを藤田隆、若林正史、フィリップ・ベケットの3人に師事。バロック音楽を軸としたリコーダーのほか、「サドメスティック」を組織しリサイタル、ジャズ、インプロヴィゼーション作品の演奏も行う。第3回リサイタルはこのスタイルでユニークかつ高感度あふれるステージを成功させた。演奏の傍ら、リコーダーコンクール審査員やリコーダー指導で海外を中心に活動している。大阪音楽大学、京都市立芸術大学音楽学部、相愛大学音楽学部各講師。神戸演奏家協会会員。

北村正彦

リコーダーを矢野千室氏、ファゴットを大野映彦氏、音楽理論を土越しに師事。京都大学文学部卒業。演奏法や音楽教育における指導法の講師として各地のセミナーに招かれ、その範囲は国内全部道府県、韓国、台湾に及んでいる。楽しくわかりやすい指導には定評がある。これまでにNHK学校放送にてリコーダー指導担当、番組委員を務めた。落語家とのコラボレーションをはじめ全国各地でのソロ、アンサンブル演奏など多彩な活動を行っている。東京リコーダーオーケストラメンバー、東京リコーダー協会、外山楽器製造(株)(AULOS)講師。

松浦孝成

リコーダーを山岡清治氏に師事。笛舎を守安功氏に教える。第4回全日本リコーダーコンテスト独奏部門全賞。専修大学文学部卒業後国内外にてジャンル、スタイルにとられない演奏活動を行い、テレビ、ラジオの出演、レコーディング、セミナーの講師など多彩な活動を行う。海外公演も多し(東京リコーダーオーケストラで台湾・韓国公演、語り部と共にアジア諸国での国際交流基金派遣公演、DuoBRESSANT(韓国)公演など。「アクレラ」"竹鼓話(こたん)"メンバー、リコーダーデュオ"DuoBRESSANT"同人。東京リコーダー協会講師。

リコーダーはルネサンス、バロックの時代に栄えたヨーロッパの素材な木の笛。いったんは音楽の表舞台から姿を消したが、20世紀にリヴァイバルして、学校教育や芸術音楽シーンで再び脚光を浴びた。今ではアマチュア音楽家のアンサンブルで演奏は盛んだが、プロのアンサンブルの優れた演奏を聴く機会は数少ない。スーパーリコーダーカルテットの演奏でリコーダーアンサンブルの醍醐味を味わおう。



11/13(土) 2010年第24回古楽コンクール〈山梨〉優勝者コンサート ヴィオラ・ダ・ガンバ

18:30

【チケット発売 9/13】

日本における古楽コンクールとして古い歴史を誇る古楽コンクール〈山梨〉は、本年5月のコンクールで第24回を終えた。今年の覇者はフランスのヴィオラ・ダ・ガンバ奏者ミリアム・リニョル。昨年に引き続き、今年も浜松に優勝者とその仲間を迎え、古楽の調べを堪能していただく。

演奏

ミリアム・リニョル
(ヴィオラ・ダ・ガンバ)
川久保洋子
(バロック・ヴァイオリン)
ジュリアン・ウォルフス
(チェンバロ)

プログラム

- 聖ジュヌヴィエーヴ・デュ・モン 鐘の音 / M.マレ
- ソナタ / J.S.バッハ ほか



ミリアム・リニョル Myriam Rignol
7才からヴィオラ・ダ・ガンバを学び、16才でリヨン高等音楽院に入学。マリアヌ・ミュラーに3年師事した後、エラスムス交換留学生としてケルン音楽大学のマスタークラスでR.ツィペーリングに学ぶ。さらにJ.サヴァル、W.クイテン、E.バルサのクラスを受講。ソリストとしては2009年ケルンにおけるパッハー・アール・コンクールで第2位を受賞。アンサンブル Estampes(エスタンプ)の創設メンバーとして、2008年イタリアのボンポルティ・コンクールで第4位、聴衆賞、最高進歩優秀奏者賞を、2009年ベルギーのブルージュにおけるコンクールで第1位、新曲作曲賞を受賞。2010年第24回古楽コンクール(山梨)〈応募部門〉バロック時代の旋律楽器、リュート風、声楽)で第1位受賞。すでにヨーロッパ各国、日本において、ソリスト、室内楽、オーケストラ奏者として活躍。



ジュリアン・ウォルフス Julian Wolffs (右)
アルムスタット音楽院でメロ・ファン・デルフトに師事し、修士課程を修了。2007年ベルギーのブルージュにおけるコンクール(チェンバロ部門)で第2位および聴衆賞を受賞。アンサンブル Estampesメンバー。

川久保洋子(左)
桐朋学園大学音楽学部卒業後、東京芸術大学大学院音楽研究科(古楽科)修了。フランスの国立リヨン高等音楽院でオディール・ドゥアルトに師事。アンサンブルEstampesメンバー。